

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

世界のすべての言語は、「若者言葉」と呼ぶことのできる一群の表現を持っています。若者言葉はいずれも、若者のあいだのカジュアルなコミュニケーションにおいてのみ用いられる隠語の一種であり、フォーマルな文章にこれが姿を現すことはありません。また、若者言葉には、流行語としての側面もあります。「若者」ではない人々なら、自分が若いころに使っていた言葉、あるいは、同年代の人々が使っていた言葉を思い出すことにより、若者言葉に交替することはすぐにわかるはずです。

最初は若者言葉であったものが使用される範囲を広げ、普通の会話で用いられる表現として流通するようになる例があります。たとえば「かっこいい」「かっこ悪い」は、戦後のある時期に若者言葉として姿を現したものの一つです。明治生れ、大正生れの人の中には、「かっこいい」「かっこ悪い」に抵抗を感じる人がいるかも知れません。私が小学校のころから少しずつ耳にするようになった「いまいち」「ダサイ」もまた、若者言葉から普通の会話表現に格上げされたようです。

ところで、新しく姿を現した若者言葉に、「やばい」という形容詞があります。この形容詞は、もともと何か都合の悪いもの、危険なものを指し示すために使われていました。しかし、若者言葉として使われる場合、これは、本来の否定的な意味を失い、「注意を向けるに値する」もの一般を表します。「やばい」は、若者言葉としてはすでにながく使われているのですから、やがて、「〈俗〉」「〈口〉」などの記号とともに国語辞典に連載され、普通の形容詞として流通するようになるかも知れません。

「やばい」に似た言葉は、他の言語にも見出すことができます。たとえばドイツ語では、 *toll* (トル) という形容詞がこれに当たります。英語の形容詞 *nice* (ナイス) と同じように、もともと「気が狂った」という意味を持つこの形容詞は、一九八〇年代に若者言葉となったとき、本来の否定的な意味合いを失い、単なる「すごい」ことを表すために使われるようになります。私は、大学に入学してドイツ語の勉強を始めてすぐ、ドイツ語の教科書で “*Das ist ja toll!*” (「すごいのは本当にすごいねー」) という文に出会いました。ただ、私があるころ使っていた古い辞書の *toll* の項目には、若者言葉としての用法がまだ記されておらず、この文の意味がわからなかったことを憶えています。

私は、若者言葉としての「やばい」を使うべきではないと考えています。少なくとも、自分自身の言葉としてこれを使ったことはありません。というのも、「やばい」を使うことにより、感情の質がいちじるしく傷つけられ損なわれるように思われるからです。

「やばい」は、大変に便利な言葉です。注意を向けるに値するような性質を具えた事柄

はすべて、「やばい」と表現することが可能だからであり、「やばい」の使い方さえ身につければ何についても、適切な言葉の選択に頭を悩ませるつらい作業をすべて免れることができるからです。

とはいえ、一つひとつの事柄には、ユニックな性質があり、このような性質を受け止めるときに私たちの心に現れる気持ちの一つひとつにもまた、他に替えることのできない個性が認められねばなりません。日本語の豊かな語彙は、このような個性の差異を正確に表現する努力の中で、ながい年月をかけて形作られてきたものです。

「やばい」の一語を使えば、事柄の性質や自分の気持ちに適合する言い回しを工夫する面倒な作業を省略することが可能になります。しかし、たとえば、一〇〇種類の表現を「やばい」によって置き替えることが許されるようになるとき、生き残るのは「やばい」であり、一〇〇種類の表現の方は、死語になることを避けられません。一〇〇種類の表現の使い方を記憶し、使い方をたえず工夫することは、脳に大きな負担を強いるからです。「やばい」という万能の代用品をただ一つ憶えている方がよほどラクであることは間違いないでしょう。

ただ、「やばい」が使われるかぎり、私たちの言語使用の能力がその分だけ損なわれることは確かです。「やばい」に慣れた者にとり、この言葉の使用をあえてみずから禁じ、これを場面に応じて適切に言い換える作業は、途方もなくつらい作業になります。これは、滅多に使われることなく痩せ衰えた筋肉を無理やり動かす労苦に似たものとなるに違いありません。

「やばい」の問題は、言語使用の能力の問題にとどまるものではありません。一〇〇種類の表現を捨て「やばい」の一語を使うことは、一〇〇種類の表現が区別していた一〇〇種類の事柄を味わい分ける力を捨てることと同じだからです。「やばい」を無差別に連発するうちに、事柄を把握する枠組みは大雑把になり、感情は粗雑になります。デイトレードで予想外に大儲けするのも、隣家が火事になるのも、街頭ですれ違ったばかりの女性が美しいのも、グーテンベルグの「四十二行聖書」が一〇円で売りに出ているのも、硬い煎餅を噛んで歯が欠けるのも、すべて「やばい」点では同じことになってしまいます。考える力、感じる力とは、言葉を正確に使い分ける力に他ならないのです。

(清水真木著『感情とは何か』プラトンからアーレントまで』ちくま新書より一部抜粋)

問一 筆者は「やばい」という若者言葉についてどのように考えているか、またその理由について

二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 筆者の表現と感情についての主張に対して、あなた自身の考えを六〇〇字以内で

論じなさい。

一、次の文章を読んで問いに答えなさい。

先に述べたように、^ア不眠は、十八世紀には病気の症状として捉えられ始め、十九世紀には睡眠薬が治療に供せられ始める。二十世紀には睡眠薬と覚醒剤（。チュウスウ刺激剤）が広く用いられるようになり、その乱用も広がった。人々は睡眠不足の状況におかれる一方で、^カカンペキな眠りを求めようとした。それを容易にコントロールできると思われた手段が睡眠薬であり、覚醒剤だった。

しかし、^イそれは人々が抱える睡眠の問題の根本的な解決にはほとんど寄与することなく、むしろ人々の自然に眠るという能力を弱体化させたと言えるかもしれない。不眠を「病気」としてしか捉えないことは、眠れないことを過度に害悪視する囚われを生み、不眠症患者をつくり出してきた面もある。

たA、途中覚醒の問題で考えてみよう。精神医学的には、途中で目が覚めて、なかなか再入眠できない場合、「途中覚醒」と呼び、睡眠障害の「症状」として捉える。途中覚醒を「症状」として捉えることは、医学的には「常識」となっている。

それに対して、アメリカ精神衛生研究所のトーマス・ヴェーアは興味深い実験を行った。ボランティアを^{ツノリ}、彼らに先史時代の人類と同じように、日の出とともに起きて、日没とともに眠るという生活をしてもらったのだ。

その結果、実験に参加した人の睡眠・覚醒パターンに、面白い変化がみられたのである。彼らは、暗くなつて横になると二時間ほど休息する。そのうちに深い眠りに入り、四時間ほど眠る。そして、夜中に目を覚まし、二時間ほど横になったまま起きる。それから再び、四時間ほどぐっすり眠る。

たB、十時間の睡眠時間のうち、実質的に眠っていた八時間を二回に分けてとっていたのである。そして、真夜中に二時間ほど目が覚める時間があった。

たC、注目すべきは、この途中覚醒の二時間の意味合いである。目覚めて過ごす深夜の時間は、決して不安やあせりといったネガティブな感情と結びついたものではなく、むしろ心地よく、生き生きと感じられ、さまざまなことを空想したり、^{メイソウ}メイソウしたりする、とても豊かな時間として体験されたのである。

この実験結果から、ヴェーアは、本来人類は、長い夜を朝まで一気に眠るといっても、途中で目覚める時間帯があり、それは、昼間の覚醒した時間とも、睡眠の時間

とも異なる「第三の時間」として存在していたのではないかと考察する。

現代人は、眠りをただ **たD** のためのものという合理的な目的に限定したことに
より、途中覚醒を、目的から外れた「**たE**」とみなし、その豊かな時間を味わう
よりも、眠れないことにただあせりと「苛立ちを覚える」という。アクジュンカンに陥っ
ているとも言えるのである。

確かに、一日の半分が夜であるということを考えて、夜の時間をずっと眠ってい
るには、長すぎる。

それで思い出すのは、子どもの頃、祖父の家に泊まりに行ったときのことだ。祖父
の家は、立派な茅葺きの **田舎家**で、そこには、まだ **古**からの時間が流れ続けている
ような空気があったが、いったん眠った大人たちが、必ず夜中に目を覚まして、寝物
語をしていたのである。私は、子ども心に、その話し声に安らぎと心地よさを感じた
ものである。そこには、確かに別の時間が流れていた。薄暗い闇の中に響く、祖父の
昔語りの言葉。それは、現代ではもう失われてしまった、夢と現実の「狭間」を漂うよう
な営みだったのかもしれない。昔の人たちは、そうした時間をもつことで、今では失
われた何かを共有し、はるかに貧しい暮らしではあっても、心のバランスと豊かさを
保つことができたのだろう。

『人はなぜ眠れないのか』岡田尊司 幻冬舎新書

問1 ー 線 a、b、c、d、eのカタカナを漢字に直しなさい。(2×5)

問2 〳 線 f、g、h、iの漢字をひらがなに直しなさい。(1×4)

問3 〵 線ア「不眠は、十八世紀には病気の症状として捉えられ始め」とあるが、
このように捉えられることによって、逆にどのような問題が生じるようになったか。
それについて書かれた一文を文中より探し、初めと終わりの四字ずつを(記号や句読
点を含む)答えなさい。(5×1)

問4 〶 線イ「それ」とは何か。文中から七字で抜き出しなさい。(5×1)

問5 **たA**、**たB**、**たC** に入る接続語は次のうちどれか。おのおの二つを選
び、それぞれ記号で書きなさい。(3×3)

ア、しかも イ、つまり ウ、すると エ、たとえば
問6 **たD**、**たE** に入る二字の熟語をそれぞれ文中から探し、答えなさい。(3×2)

問7 本文は、岡田尊司の『人はなぜ眠れないのか』の一部である。筆者は、この文
章で「途中覚醒」をどのような時間だと捉えているか。文中から探し答えなさい。

(5×1)

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

どんな国家であれ、幾世代にわたる人間の思想や活動の蓄積を経て、現在の姿に発展してきた。社会の階層や生活の状態にかかわらず、たゆまず黙々と働いてきた人は多い。土を耕す者、鉋山を掘る者、発明家、探検家、製造業者、職人、詩人、哲学者、そして政治家……。彼らの貢献によって偉大な成果が生み出され、しかもその成果は世代を超えて伝えられながら、いつそうの発展を遂げていく。

このように、「文明を創り出す名工」と呼ぶにふさわしい人々の努力は、とぎれることなく引き継がれる。そのおかげで、カオス（混沌）に支配された世界から、すぐれた産業や科学、そして芸術が生み出されてきた。

その意味で現代の人間は、祖先の技術や勤勉によってもたらされた豊かな財産の後継者なのである。そして、われわれはこの財産を、損なうことなく自らの責任において守り育て、次代の人々に手渡していかなければならない。

自助の精神はエネルギーに活動する人間に見られる特徴だが、それはまた常にわれわれイギリス。全体のすぐれた国民性でもあった。自助の精神がその国民全体の特質となっているかどうかが、一国の力を見るときに正しい尺度となる。

確かにどんな場合にも、他より抜きん出た力を発揮して人の上に立ち、世間の尊敬を一身に集める人物はいるものだ。だが、それほどの力も持たず名も知られていない多くの人たちでさえ、社会の進歩には重要な役割を果たしている。

大切なのは一生懸命働いて節制に努め、人生の目的をまじめに追及していくことだ。それを周囲に身をもって示している人間は多い。彼らは、地位や力がどんなに取るに足りないものだとしても、現代はもとより将来の社会の繁栄に大きく寄与している。

というのも、彼らの生活や人生観は、意識するしないにかかわらず周りの人間の生活に浸透し、次代の理想的な人間像として広まっていくからだ。

エネルギーに活動する人間は、他人の生活や行動に強い影響を与えずにはおかない。そこにこそ最も実践的な教育の姿がある。学校などは、それに比べれば教育のほんの初歩を教えてくれるにすぎない。生活に即した教育は、むしろはるかに効果が高い。家庭や路上で、店や工場や農家で、そして人の集まる場所ならどこでも、毎日の生活教育は実践されている。

これが社会の一員となるための教育の仕上げなのである。それを、ドイツの劇作家シラーは「人類の教育」と呼んでいる。

実際の仕事を学びながら人間性をみがき、克己心を養うことができれば、人は正し

い規律を身につけ、自らの義務や仕事をうまくこなしていけるようになる。このような教育は書物からは学べず、学校の単純な授業からも得られない。

ペーコンはこう語っている。

「どんな学問や研究も、それ自体をどう使えばいいかについては教えてくれない。その一方、現実生活をよく見て観察すれば、学問によらずとも学問にまさる知恵を身につけることができる」

このペーコンの言葉には、現実生活の持つ意味が正しく表現されている。しかも、^イ知性を啓発するには何が必要かが的確にとらえられている。

人間は、読書ではなく労働によって自己を完成させる。つまり、人間を向上させるのは文学ではなく生活であり、学問ではなく行動であり、そして伝記ではなくその人の人間性なのである。

そうはいつても、すぐれた人物の伝記には確かに学ぶところが多く、生きていく指針として、また心を奮い立たせる糧^{かく}として役立つ。立派な人間性を持った人物は、自助の精神や目的へ邁進^{まいしん}する忍耐力、めざす仕事をやり抜こうとする気力、そして終生変わらぬ誠実さを兼ね備えている。

伝記は、このような貴重な人間の生涯をわかりやすい言葉で伝え、われわれが目標を成し遂げるには何が必要かをはっきり示してくれる。また、主人公が恵まれない環境から身を起して名誉や名声を勝ち得るまでの歩みが生き生きと描かれ、読む者に自尊心や自信の大切さを痛感させる。

科学の分野にしろ、文学や芸術の分野にしろ、偉人とたたえられる人物はどこか特定の身分や階層に属しているわけではない。大学を出た者もいれば、幼いうちから働いた者もいる。貧しい掘っ立て小屋の出もあれば、金持ちの邸宅に生まれた者もいる。

きわめて貧しい境遇にもかかわらず最高の地位に上りつめた人物の例を見れば、どんなにきびしく克服しがたいような困難でさえ、人間が成功する上での障害とはならないと、はっきりわかる。多くの場合、このような困難は逆に人を助ける。つまり、貧苦に耐えて働こうという意欲も起さず、困難に直面しなければ眠ったままになっていたかもしれない可能性も呼びさまされるからだ。

このように、障害を乗り越えて勝利を勝ち得た人間の例は多い。それは「^ウ一志をもつて万事を成し得べし」という格言をめぐりに証明している。

人間の優劣は、その人がどれだけ精一杯努力してきたかで決まる。怠け者は、どんな分野にしろ、すぐれた業績を上げることなどどうもできない。骨身を惜しまず学

び働く以外に、自分をみがき、知性を向上させ、ビジネスに成功する道はない。

また、生まれつきどんなに膨大な富と高い地位が約束されていても、名声を得るには、その本人がたゆまず努力する他ない。

何エーカーもの土地は親から譲り受けられるかもしれないが、知識や分別はそうはいかない。金持ちは、他人に金を払って自分のために働かせることはできても、他人から自分のためになる思慮分別を買い取れはしないのだ。

どんな分野でも、目標をめざして精一杯努力しなければすぐれた業績は上がらない。この点を、われわれは固く肝に銘じておくべきである。

『自助論』S・スマイルズ 三笠書房

問1 —— 線a「蓄積」、b「発展」、c「全体」の対義語を、それぞれ漢字二字で答えなさい。(2×3)

問2 —— 線ア「人類の教育」について、次の問いに答えなさい。(5×2)

A 「人類の教育」と同義で用いられている言葉を文中から八字で探し、答えなさい。

B 「人類の教育」によって、人間はどのようなになると筆者は考えているか。文中から探し、初めと終わりの四字を(記号や句読点を含む)答えなさい。

問3、—— 線イ「知性を啓発するには何が必要か」とあるが、ベーコンは、知性を啓発するために必要なことを何と言っているか。文中の言葉を用いて答えなさい。(5×1)

問4、—— 線ウ「一志をもって万事を成し得べし」と同じ意味のことを別の言葉で表した部分を三十字で探し、初めと終わりの四字を(記号や句読点を含む)答えなさい。(5×1)

問5、本文から次の段落が抜けている。これが入る次の段落の最初の五字を抜き出しなさい。(5×1)

たとえば、歴史上の大きな戦役で名を残すのは將軍だけだ。しかし実際には、無数の一兵卒の勇氣あふれた英雄的な行動なしに勝利は勝ち取れなかったはずだ。人生もまた戦いに他ならない。そこでも無名の兵士が実に偉大な働きをしてきた。伝記に名を残した幸運な偉人と同じように、歴史から忘れ去られた多くの人物が文明と社会の進歩に多大な影響を与えている。

三、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

江戸時代、庶民教育を支えた寺子屋の授業料は①必ずしも一律ではなかった。当時の事情に詳しい研究家、小泉吉永こいずみよしながさんによると、家庭の経済力に応じて謝礼を受け取ることも多かった。貧しい家からはもらわなかったり、逆に文房具を支給したりした例を伝える史料もある。ひとり親世帯など、子どもの貧困で教育格差が拡大してしまおうという負の連鎖が昨今は懸念される。そんな状況を②危ぶみ、経済的に余裕のない家庭の子どもの学習を支援する取り組みが広がっている。NPO法人「キッズドア」(渡辺由美子わたなべゆみこ理事長)は、進学を希望する中学3年生を対象とする無料の学習会、「タダゼミ」を2010年から実施している。現在の拠点は東京都足立、杉並両区内などで、日曜日などにボランティアの大学生や社会人らが、マンツーマンで生徒に勉強を教える。受講者は全員高校に進学している。今春からは英語教室も開設した。お盆の時期も、事務所では中学生が熱心に補習を受けていた。「困窮する家庭は社会的に孤立しやすい。普段ふれあう機会の少ない大学生③から、刺激を受ける意味も大きい」と渡辺理事長は語る。キッズドアには、約1200人のボランティア学生が登録しているというから④頼もしい。こうした活動に取り組む各地の団体との連携も図るといふ。小泉さんによると、幕末期には農村の有志が貧しい妊婦に出産後に支援金を数年間支給する活動も⑤あったという。民間共助は今も昔もだが、ひとり親世帯の支援で、公助の役割はやはり大きい。不十分と指摘される児童扶養手当などの拡充に、国も本腰を入れてもらいたい。

(毎日新聞「余禄」二〇一五年八月二五日)

問1 —— 線①～⑤の品詞名を次より選び、記号で答えなさい。(1×5)

ア、名詞 イ、動詞 ウ、形容詞 エ、助動詞 オ、助詞 カ、副詞

問2 この文章を三つの段落に分けるとしたら、どこで分けるか。二段落目と三段落目の初めの四字を(記号や句読点を含む)書きなさい。(5×2)

問3 この文章の中で筆者が最も言いたいことはどんなことか。文中の言葉を用いて五〇字以内にまとめなさい。(10×1)